

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

右翼暴力集団＝鉄労を1日に解体!

「特攻隊」(外部右翼暴力部隊)を導くこの7・30佐倉支部へのなぐりこみを許さないぞ

動労千葉に結集するすべての組合員の皆さん! とりわけ佐倉支部の皆さん! 七月三〇日、憎むべき当局・権力の手先、右翼暴力集団＝鉄労の外部暴力団を含む「特行隊」が突如として佐倉支部へ二〇数名でなぐり込みをかけ、組合員への暴行の限りを尽し、あわせて右翼脱落分子をかき集め「鉄労佐倉分会」なる裏切り組合を「結成」せんと策動した。わが動労千葉闘争委員会は、湧き上がる怒りをもってこの暴挙を弾劾する! だがしかし、わが動労千葉は、佐倉支部の仲間を先頭に、このデッチ上げ「鉄労分会」なるものへの断固たる解体闘争を展開した結果(七月三十一日現在)首謀者宇ノ沢を除く全員が自己批判し、鉄労脱退届を提出し、たった一日にして右翼分裂組合「鉄労」は淡雪の如く粉碎・解体されてしまった、ということを高らかに報告する。更に徹底的に闘い、佐倉支部の真の戦闘力を全力投入して、闘う佐倉支部の結成へとバック進しようではないか!

動労「本部」革マル・国労日共と 連けいした鉄労右翼暴力集団の襲撃!

わが動労千葉が「本部」革マル反動集団としれた組織攻防戦を展開しているその間隙を利用して、七月三〇日鉄労右翼暴力集団は佐倉分会なるものをデッチ上げんとしてきた。

もともとこの首謀者宇ノ沢なる者は、以前から金銭的にだらしないことでは職場の仲間のものばらの評判であった。鉄労および当局はこうした宇ノ沢につけ入り、「本部」革マル反動集団が発行するデマ情報を下敷にしてつくったデマビラをひそかに職場へ持ち込ませ、酒・金・出世のたぐいでなんとか仲間をかき集めようと策動をくり返していた。しかし佐倉内の圧倒的組合員にソッポをむかれた宇ノ沢は、ついにあせりから鉄労本部に泣きつき、外部暴力集団を職場に導入するという暴挙に走ったのである。

7・30暴力的乱入はこうして行われた

卑劣にも鉄労へ逃げこまんとする首謀者宇ノ沢以下九名に対し、当然のことながら佐倉支部組合員と他支部よりの動員者が説得行動を展開していた。これに対し、七月三〇日、鉄労右翼暴力集団は突如として庁舎内に乱入し暴力的敵対行為にうつて出てきたのである。この7・30鉄労右翼暴力集団による佐倉支部暴力的乱入・敵対行為こそかの革マル暴力集団による4・17津田沼支部襲撃とならぶ悪質・凶暴な組織破壊攻撃であり、断じて許すことはできない。

当日、鉄労は佐倉駅周辺に偵察員を配置し、乱闘の機動隊多数の出動を要請しておいた上で機関区出入口に私服警官と肩を並べ、マスコミ(フ

ジテレビ)まで呼び寄せ指揮者らしい男が「ここを撮れ、あそこを写せ」と指さしながら挑発とデッチ上げの機をうかがっていたのである。

動労千葉の理路整然とした説得行動に動揺を深める鉄労加入届提出者に焦った宇ノ沢は、一旦、一人で機関区出入口に待機する鉄労右翼暴力集団にやら報告しに行き、戻るやいなや五名を誘い出そうとしたが、一人も応じる事なく、我々の説得に聞き入っていたのである。この事態に焦り逆上した鉄労右翼暴力集団は、下村(鉄労地本書記長)を先頭に、「特行隊」というネーム入りのジャンパーをきたヤクザまがいの男達(鉄労本部職員と石川島播磨造船の右翼同盟おかかえ暴力団)を従え庁舎玄関から乱入し、動労千葉組合員に対し口汚なくのしり暴力をふるいつつおそいかかり挑発してきたのである。

まさにこの許し難い暴挙こそ鉄労の本性を明らかにしたといえる。階級闘争至上主義に反対し、民主的労働組合をなする美名を語りながらその本性たるや右翼体質を丸出しにし闘う労組を潰すためには権力と一体となり暴力的に敵対するという反労働者集団である事を銘記せねばならない。

密集した反動をぶち破り、戦闘的 佐倉支部の早期結成をかちとろう!

今回の鉄労右翼暴力集団による「クーデター」のあえない破産(一日もたず解体!)は、権力・当局、「本部」革マル集団、国労内日共分子、鉄労五味一体となった組織破壊攻撃を粉碎したわが動労千葉の正義と前進を力強く示し、ジェット闘争できたえられた佐倉支部の底力をさし示した。裏切り者を粉碎し、さらに佐倉支部全員による戦闘的支部結成にバック進しよう!

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!